# 親子でなにわ新発見!

おとなと子どもがともに楽しめる講座やイベント、施設を体験レポートします。

今回ご紹介するのは **大阪市下水道科学館** です。

## 大切な、大切な…の巻

大切にしないと未来がたいへん!とくにこれからの季節はお世話になるから大切に。ちょっとお勉強の巻…です。でも、おすすめするからにはお楽しみもあります。

イ

ロ

ハ

ニ

ホ

ヘ

ト

今回おじゃましたのは「大阪市下水道科学館」です。館内に入ってすぐに目につくのは受付にある、きれいなさかなが泳いでいる水槽です。その横にあるパソコンは館内の展示内容を検索できるようになっています(イ)。順路は特に決まっていないので、こちらでまわる順番を考えてから行きましょう。私がまず向かったのはB1階。この建物の外の壁には滝のように水が流れている場所(ロ)があります。半分地下にある窓はこれを内側から見るような構造になっています。かなりの迫力です。この階のメインは『地下探検号』(ハ)です。シールドマシンの中に入って、地下の世界旅行へ出かけましょう。けっこう揺れるので子どもにはどうかなと思いましたが、小学校4年生の女の子に聞いてみると「楽しかった!」という返事でした。次はエレベーターでいっきに6階へ。ここは植物園?いえいえ、水だけで栽培されている野菜や果物(ニ)です。どれも色がきれいで、新鮮で(当然ですが)おもわず食べたくなってしまいます。ここから1階ずつ降りて行きます。水色にも緑色にも見える光のあふれるトンネル(ホ)を歩きながら下水道の仕組みを学習することができる4階は特におすすめです。1時間あたり100ミリという豪雨が体験できるコーナー(ヘ)へはぜひどうぞ。“ゲリラ豪雨”という言葉を最近聞きますが、ここでそれを体験してみましょう。1階から屋外へ出ると、そこは緑あふれる癒しの空間が広がっています。この水は、下水道の水を処理した“高度処理水”です。私たちが使った水も下水処理場で処理されて海へ帰って行くわけです。このきれいな水をみているとその技術の高さを実感できます。

アクセスのよいところにある施設です。“高度処理水”を利用したせせらぎがあり、緑があふれています。散歩気分でおでかけはどうでしょう。駐輪場が広いので、ファミリーでサイクリング、休憩はここで、なんていうプランもいいかもしれません。暑くなるにつれてたくさん使う“水”ですが、使った後のこともちゃんと考えなくてはいけません。水をとりまく環境を学ぶきっかけになればいいですね。

写真・文　梅木智子

### 下水道科学館

HP http://www.osaka-sewerage-e-a.or.jp/gesuidou-kagakukan/home.html

場所 〒554-0001
此花区高見1-2-53
電話 6466-3170
FAX 6466-3165
休館 月曜(祝日の場合はその翌日)、年末年始(12/28～1/4)
費用 無料
交通 阪神「淀川」、市バス「高見1丁目」

## おおさか歴史探訪㉟

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

### 柴島晒(くにじまさらし) ―雪がつもったようにきれいだった淀川堤―

5月も中旬となると初夏の薫りがただよってきます。淀川の河川敷を散歩するのにも気持ちの良い季節となりました。今回は、淀川堤防沿いの柴島一帯で木綿の晒(さらし)がおこなわれていたというお話しです。

河内地域は木綿の産地として有名ですが、ここで織られた木綿は仲買人の手により柴島に運ばれてきました。晒業に従事する人たちは、運ばれてきた生なりの綿布を地釜によりワラ灰で煮て脱色し、川の水で洗って河川敷に干しました。そして乾いたら水を打ってまた干す、という作業を繰り返すことにより、1週間ほどでまっ白になったといいます。江戸時代から明治時代にかけて盛んで、明治末期には500人余りの人が従事していましたが、その後、柴島に浄水場ができたため仕事場が減少し、また昭和になると大資本による泉州の晒業が盛んになり、柴島晒はほぼその歴史を終えることとなりました。

柴島一帯で晒がおこなわれたのは、淀川の豊富な流水があったからでした。淀川堤の一面に木綿を敷き並べて乾したので、まるで雪がつもったように白くきれいで、晒堤と呼ばれた名所になっていたそうです。そして多くの人々が舟を浮かべてここに遊んだ風流の地であったということが、江戸時代の地誌『摂津名所図会大成』にかかれています。